

The 2<sup>nd</sup> Asia Pacific Next Generation Camp  
--Asia network of the next generation について

早稲田大学メディアネットワークセンター 史 虹波

[shi@goto.info.waseda.ac.jp](mailto:shi@goto.info.waseda.ac.jp)

2002年9月17日

2002年8月28、29日に、中国の上海市で第2回 Asia Pacific Next Generation Camp が開かれた。

キャンプの初日は、キャンプの議長である Ms. Yangyang の司会によって、参加者全員の自己紹介でスタートした。アジア太平洋地域からは 51 人がキャンプに参加した。日本からは 9 人の参加者であった。主催地である中国から 17 人の参加があり、隣の韓国からは 18 人の参加者がいった。APNG の副議長の Ms. An Jie の司会で、ICANN のディレクターである村井純教授は”Internet leadership in AP”についての講演や、”Asia cultural Network”についての Chung-hwa Univ. の Prof. Kuan-Hsing Chen の講演とディレクターの Mr. Paul Wilson の”Internet policy in AP”についての講演が行われた。村井教授の”Internet leadership in AP”の中に、第 54 回横浜で開かれた IETF についての紹介もあった。例えば、台風が来たときに、無線のアンテナを保てるための苦労などの話も入っていた。午後の”Youth Homepage Presentation & discussion of the networking of the next generation in AP”セッションには、Ms. Oiwan Lam が議長として務めた。”Haja Center”や”UniNet”、”ASES”と”Cultural Studies of Shanghai Univ.”についてのプレゼンテーションがあった。その中にも、”haja”は韓国語の中に”一緒にやろうよ(Let’s do it)”という意味をもつ。“ソウル市青少年職業体験センター”( <http://www.haja.net> ) という公式名をもつが、延世大学ユースカルチャーセンターがソウル市から委託運営している。夕方のセッションには同時進行のセッションが”Young feminist network”、”Internet Policy in AP”と”Asia youth culture”という 3 つあって、私が参加したのは”Asia youth culture”というセッションである。”Asia youth culture”の議長は ASES-KR から来た Mr. JungWon Suh であった。参加者は 19 人。会議は完全に議論式であって、いくつの議題があって、それらについて議論して、まとめていくということであった。会議には、アジアというのは何、どこがアジアなどという単純であっても、決して簡単に答えられない議題や、西欧、アメリカの影響をうけつつあるアジア文化、若者の文化とそのネットワークについて様々の議題が挙げられて、議論された。その引き続きとして、次回のキャンプでも行うためには Asia Youth Culture Working Group として存続し、 [camp-culture@apng.org](mailto:camp-culture@apng.org) というメーリングリストを作って、キャンプ後でもオンラインの議論を引き続く。自分にとっても突然の指名だと思うが、Asia Youth Culture Working Group の議長と指名されたが、これから WG に役に立つように、WG の議題をまとめていくと考える。

二日目のキャンプはパネルディスカッションが朝からスタートし、その後は前日夕方で行われた各セッションのまとめについて、各セッションの議長による発表が行われ、私も Asia Youth Culture についての 10 分ほど発表を行い、参加メンバーから今後の Asia Youth Culture WG についてのコメントを得た。